

9月20日に、千

代田区砂防会館で

「令和4年度全国

町村議会広報研修

会」が開催され、広報

副委員長の木村議員と2

名で参加しました。

議会広報ファシリテ

ター（進行調整役）、広

報専門監講師による研修

では、「広報とは広く聴

いて広く知らせること。

人との信頼関係を作り出

すために行う誠実なコミ

ュニケーション機能とし

て、受け手を意識した情

報発信ができていくか」

などの問題定義があり、

伝えるための工夫や正確

な情報が一人歩きして周

知される仕組みなど、改

めて広報が担う役割を考

えさせられました。

また後半は令和3年度

広報コンクール受賞トッ

プ3の議会だよりを取り

上げ、それぞれの特徴や

クイズや漫画、遊び心も

取り入れた紙面づくりな

どが紹介されました。議

会広報のウェブ版や議会

のYouTubeチャ

ネルの開設など、ICT

を活用する手法を意欲的

に取り入れている例が見

られました。

このような先進事例は

数年後には特別なことで

はなくなり、新島村議会

においても議会力・議員

力の向上が強く求められ

るようになるだろうと実

感しました。

コンクール受賞トッ

3議会の広報誌の共通点

はいくつかありますが、

一般質問や議会の提言が

どうなったのか、どのよ

うに行政に反映されたの

かを追跡するコーナーが

あり、議会の取り組みの

サイクルが可視化されて

います。議会は住民の意

見や声を聴き、政策や

意思決定に生かし、議会

活動への理解と関心を深

めるために広報を活用し

ます。広報はまさに、議

会活性化のエンジンであ

るとい講義に深く納得

しました。

ただ課題としては、議

員の中には議員活動はあ

くまで個人活動であり、

各々がそれぞれに活動す

れば良いという考えの方

もいるので、すべての議

員に議会広報で協働させ

る強制力はありません。

しかしながら、住民から

は議会としてまとめて見

られてしまうジレンマも

あります。

それでも議会広報は住

民の最大のメディアであ

るといことは忘れては

ならないと思います。

（小久保利佳）

研修で学んだ、  
議会だより製作の実態

住民の写真を多用

表紙に地域住民の顔写

真が掲載されるところが

多いです。これは全戸配

布ではないため、手に取

ってもらえるように、つ

ながりをつくって関心を

持つてもらおうよう意識し

ているようです。

編集作業は重労働？

先進的な町村議会でも、

正副委員長は毎号50時間

を越える仕事量があり、

事務局からの編集サポー

トがある自治体もあるそ

うです。

ICT活用で作業効率化

2ヶ月以内の迅速な発

行が可能な議会は、イン

新島村議会広報これまでの改革

- 紙面のオールカラー化
- デザイン編集を島内の事業者に委託
- 定例会→議会だより発行→定例会のサイクル化
- 表紙や住民インタビューで村の新しい動きを発信
- 議会中継（オンライン）の定着化
- タブレット導入による編集作業の効率化

ターネットで原稿を共有してスピードアップしており、やはりICTの活用が作業効率の向上に一役買っているとわかりました。